

## 第5回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会議事録

日時：平成29年8月24日（木）13:00～17:00

場所：高知県立牧野植物園 本館 映像ホール

出席者：[委員] 邑田委員長、受田副委員長、海老塚委員、大野委員、  
川崎委員、北村委員、杉田委員、竹内委員、中島委員、  
村上委員、安田委員（11名）

[アドバイザー] 牧野一淳氏

[オブザーバー] 高知県観光振興部観光政策課、高知県土木部公園下水道課（2名）

[指定管理者] 公益財団法人高知県牧野記念財団（10名）

[事務局] 高知県林業振興・環境部長、環境共生課（8名）

### 次第

<第一部> 13:00～14:00

1 長江圃場の視察

<第二部> 14:00～17:00

1 基本構想とりまとめの検討

2 (仮称) ファミリー園及び(仮称) スタディ園の整備について

### 【第一部】

1 長江圃場の視察

・・・現地視察（説明者：牧野記念財団）・・・

### 【第二部】

（事務局：林業振興・環境部長）

先程は、前回現地を色々ご視察いただきましたが見学できなかった長江圃場を見学していただいた。長江圃場の方では希少な植物が確実に保存されているというところで、牧野植物園の大きな役割の一つに触れていただきたいとの見学目的であった。今回第5回については、皆さま方からいただいた色んなご意見・アイデアについて、県としてこの牧野植物園の持つポテンシャルを最大限に引き出して、牧野植物園を世界に誇れる植物園として磨き上げていきたいということで、これまでに皆さま方からいただいたご意見を基に、基本構想（案）としてまとめた。これについて、今日皆さま方から忌憚のないご意見をいただいて最終意見として基本構想（案）としてとりまとめていきたいと考えておりますので、本日は宜しく願います。

(事務局)

本日の検討委員会は、まず初めに事務局より、基本構想（案）についてご説明させていただきます。その後、基本構想コンセプトについてのご議論を経て、基本構想（案）全体について途中休憩を挟みながら、ご議論をいただく。最後に事務局より、本年度既に着手している、(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園の状況についてご報告させていただきます。

それでは、さっそく議事に入らせていただきます。ここからの進行は委員長にお願いします。

## 1 基本構想とりまとめの検討

(委員長)

最初に、基本構想（案）の冊子をあらかじめ送ってもらったが、基本構想のとりまとめの検討についての資料とコンセプトの資料についてご説明をお願いします。

(事務局：環境共生課長)

基本構想（案）の資料をご覧ください。まず、1枚開いていただくと目次があり、P3に磨き上げ基本構想についての目的と策定の位置づけ、現状の課題として、牧野植物園の役割を記載、P4に図化したものを挿入している。

P5に展示活動の項目で現在の植物展示の状況説明、P6で室内展示の主に展示館にある、牧野富太郎の生涯のコーナーの内容等を記載している。課題として、現状の展示活動に対する課題意識について記載し、①憩いの場の確保では過去の芝生広場を再度望む声について、②園地のバリアフリー化では、地形を活かすと勾配が非常に多いのでバリアフリーの観点からは非常に問題となっていることについて、③では案内板や説明板の不足、園内のマップ表記の課題について記載し、④貴重な資料の公開、牧野富太郎博士の植物図や標本の実物をなるべく公開するということについての課題意識を記載している。

P7には教育普及についての取り組みとして、生涯学習と学校教育への取り組みについて記載、ボランティア活動については必ずしも学習面だけではないがこのページに記載している。園の運営は、お手伝いしてもらっております皆さま方によって支えてもらっている。課題として、もっと多くの子どもたちに来園してもらいたい、もっと植物に触れ合っただけで理解をしてもらうために、園内の施設について課題として触れている。

研究の取り組みについて、(1)では、植物分類学／植物保全学、(2)は有用植物学についての状況を整理している。(3)課題でこれまでの取り組みの課題について触れており、特に有用植物による商品開発はどの様につながっていくことができるのか、また県内での産業振興にどのように結び付けていけるのかを課題として記載している。研究の成果や業績について、一般の方はなかなかご存じないと思われるので、これまで以上に植物園の研究の成果を県民の皆様にお知らせしていく必要がある。

P9の来園者の利便施設などでは、植物園ではショップ、レストラン、カフェを運営して

おり、運営自体は財団から民間事業者へ委託している。こういった運営の仕方や新しい運営の在り方、またレストランの席数が非常に少ないので、観光バスで来園者が来た場合、お客様全員が席に着けないという状況があるため、課題意識として、こちらに記載している。

来園者の状況については、P 10 に図示しているとおり、平成 20 年度の土佐であい博開催時と、翌年度は温室改修のため来園者数は減っているが、平成 22 年度の温室リニューアル時は約 20 万人の入園者を記録しているが、その後平成 26 年度まで減少している。平成 27 年度、28 年度は若干持ち直している状況です。その下に、月別の来園者数をグラフで示している。3・4・5 月の一番季節のいい時期の集客が良く、秋口のイベントでも多くなっている。

一番下に、交通アクセスとしての項目を記載している。本園への公共交通手段はバスしかございませんので、他は観光バスや自家用車での来園となっている。

牧野植物園のこれまでの磨き上げの中で、五台山全体での磨き上げを考えるとということで、隣接している竹林寺様や五台山公園などと連携しながら全体として磨き上げていくことが重要であるということで整備を進めていきたいと考えている。

南海トラフ地震対策は、五台山全体が長期浸水することが想定されている。牧野植物園も避難場所／避難所として約 6,000 人の避難者が押し寄せることが予測される。牧野植物園としても改めて地震対策を行っていく。

P12 には基本コンセプトとしており、こちらについては後程改めてご協議いただく。

その下には、3 つの拠点機能と取組方針としてこれまでの協議内容を踏まえて、3 つの拠点として、県民の誇りの拠点、知の拠点、宝の人材を育成する拠点として、具体的に記載している。

P13 磨き上げ整備の内容について、①～③までは来年開園 60 周年を迎えるにあたっての整備着手が決まっている。④～⑧は磨き上げ構想での事業化を目指して記載している。①の（仮称）ファミリー園は本館と展示館をつなぐ回廊から南側のスペースを現在は民地ですが、広場にしたいと考えている。回廊から北側については、（仮称）スタディ園として整備して、実際に植物を手にとって食べたり飲んだりといった活動の場にしたいと考えている。こちらは建物を建てて、学習プログラムの場としても活用していただきたいと考えている。

P15 夜間照明について、現在は夜間開園を実施するたびに照明をレンタルで借りて設置している。照明を常設化することによって、具体的には開園日数を 60 日程度に増やしていきたいと考えている。夜間照明を設置することによって夜の植物園の魅力を、より充実させていきたいと考えている。

室内展示については、現在展示館を中心に色々な展示をしているが、VR、4K、8K を使って磨き上げをしていきたいと提案しており、ぜひ基本構想でこの様な件を実現させたいと考えている。P16 には東京国立博物館のシアター写真（100 席程度）を挿入している。これから、牧野植物園に設置するにあたってどの位の席数が必要なのかは、今後実際

の整備を行う段階で検討するが現在、学校 1 クラス分くらい、50 人程度の席数を検討している。お宝展示については、植物図や植物標本を実物展示と平行して VR や 4K、8K を使って詳細の説明をしながら、常設展示での展示を行い、植物園が持っている牧野博士の本物を見て感動していただきたいと考えている。

新研究棟では、現在南園に資源植物研究センターがあり、そこで有用植物の研究をしている。今年の 3 月に耐震について問題があると診断結果が出ており、建て替えて機能の強化を図りたいと考えている。現在、有用植物は資源植物研究センターで研究を行い、分類学等については本館の方で分かれて研究を行っている。新研究棟の建設にあたっては研究者同士で交流を進め、研究を深めていただきたいと思う。P17 に現在の計画を整理している。研究領域の枠を取り払った研究施設としてオープンスペースという考え方で、植物分類学、有用植物学の研究者たちが一つのオープンスペースで一緒に研究を行い研究の向上を図りたい。外部研究者との交流を深める研究施設では、オープンラボの機能を持たせ外部の研究者の方々にも研究を行っていただくスペースを設け、大学や企業の研究機関の研究スペースとして利用していただきたい。子どもたちをはじめ一般に開放された研究施設の項目では、この施設では一般入園者が、廊下からどんな作業をしているのか見える様にし、日ごろの様な研究が行われているのか、どの様な成果が出ているのか説明するスペースも併せて設けたいと考えている。色々な研修メニューを設けて子どもたちも研究に取り組み、未来の子どもたちのためにもお手伝いをしたいと考えている。

レストラン、ショップの再配置について、狹隘道路を拡張すると、現在東側にあるショップが取り壊されることになるので、(仮称) 新研究棟内に組み込みたいと考えている。現在、竹林寺様が工事をされており、道が狭くなっているが、通常でも一車線しか通れない道路である。この道路の拡張を行いたいと考えている。道路の拡張、新研究棟の整備、北側の(仮称)ファミリー園の整備を行うので、(仮称)ファミリー園を抜けて南園への動線、来園者の通路を含め、この辺り一帯を改めて磨き上げを行う必要があると考えている。

五台山の振興の項目については、今後県と竹林寺様との調整を行いながら、園への来園者、お寺への訪問者を相互に呼び込んでいきたいと考え、お互いの施設への動線確保を工夫していきたいと考えている。

P19 の南海トラフ地震対策では、先程視察していただいた長江圃場は、長期浸水エリアとなり、数週間以上浸水すると想定され、五台山は周囲から孤立すると考えられる。長江圃場は植物園のバックヤードとしての機能を震災時どうするのか、貴重な植物をどう守るのか検討が必要である。具体的には、長江圃場の機能を一度に移転することは園の地形の問題により困難だと考えているので、今後植物園と相談しながら、進めていきたいと考えている。

台湾産ツツジ属の植栽展示については、これまで特に事務局から皆さまに示してなかったが、植物園の持つポテンシャルとして、台湾で研究を行う中で、現在台湾産ツツジ属の苗が育ち、ぜひ園地で植栽を行いたいと考えているので、基本構想の中で実施したいと考

え記載している。こちらについては、今回の委員会での検討事項として各委員様方から質問事項をいただいている。別紙の第 5 回検討委員会検討事項「基本構想案」についての A 委員からの意見で、台湾産ツツジ属の件で意見をいただいている。この整備計画では他の植栽整備については触れられていない。この項目のみを入れるのであれば重要な項目となり、しっかりした計画をすべき、とのご意見をいただいた。こちらについては本日の委員会後、皆様方のご意見を反映し修正を考えている。

P19 に戻り園内ガイドの項目では、①Wi-Fi を利用したタブレット等を活用した音声ガイド等の提供を実施していきたいと考えている。P20 の②では、人的ガイドの充実を行っていきたいと考えている。

バリアフリー対策の項目では、100%のバリアフリー化は難しいと考えているが、できるだけバリアフリー化を進めていくといくことで記載している。

案内表示の改善では、まずは（仮称）ファミリー園・（仮称）スタディ園の方から行い、順次改善していく。

広報の項目では、ホームページや SNS を活用し広報活動を行っていく。また、短時間滞在の観光客へのコース提案や、観光業界への説明会や内覧会の開催を行う。

植物園の運営体制として、色々な提案を打ち出しておりますが、それを補う体制をしっかりと整えていき、また園を支えるボランティアの方々のスキルアップと、更に多くのボランティアの方々に支えていただきたいと考えている。

最後に、磨き上げ整備スケジュールについて来年平成 30 年度に向けて既に着手している、（仮称）ファミリー園・（仮称）スタディ園の整備、夜間照明の常設化を記載している。平成 31 年度以降の整備目標として、5 つ記載している。今回の委員会の意見において、別紙の第 5 回検討委員会検討事項「基本構想案」についての B 委員の意見より、整備スケジュールの優先順位の記載を行うべきとの意見をいただいた。これについては、今回は基本構想という位置づけでまとめていきたいと考えているので、再来年度平成 31 年度以降でまずはやるべきことから整備していきたいと考えている。実際にいつ整備を進めて行くのかについては、今後の計画の中で、整備計画を色々な調整や技術的検討を踏まえてしっかりと進めていく。今回の基本構想では、やるべきことの整理をし、各項目のスケジュールまでは記載しないでおこうと考えている。

このほか、別紙の第 5 回検討委員会検討事項「基本構想案」についての E 委員からの意見で、シビックプライドの観点から多くのお客様、観光客の獲得につながる様にすべきだご意見をいただいている。インターナルマーケティングからエクスターナルマーケティングの順が正しく、地元の人が心から素晴らしいと思えば県外の方の満足度も高くなるとご意見をいただいているので、3 つの拠点の記載方法について、本日協議していただいた内容を反映し記載させていただきたいと思う。

P22 以降はこれまでの資料編として植物園の沿革や委員会設置要綱、委員会名簿、委員会開催概要を記載している。基本構想については以上となる。

(事務局)

つづいて、皆様方にいただいた基本構想についてのご意見、基本コンセプトについてご説明させていただく。基本構想（案）の中の P12 に基本コンセプト項目があります。これまでご議論いただき、皆さまから案を出していただいております、皆さまの意見をまとめさせていただいたのが、別紙の第 5 回検討委員会検討事項「基本コンセプト」の案①から案④となる。このコンセプトを見ていただき、皆さまからいただいたご意見を A 委員から H 委員の意見として記載している。世界に誇れるブランドとしてすべてのコンセプトに「MAKINO」という言葉を入れている。他に「いのち」や「植物」、「共生する」等の言葉を入れているが、皆さまのご意見はほぼ①か②、もしくは①か②を合わせたようなコンセプトが良いとの意見に集約された。更に本日 2 人の方からご意見をいただき、①が良いとのご意見をいただいた。これを基にまずは基本コンセプトについてご検討いただきたい。

(委員長)

基本コンセプトから検討していくことになっているが、あらかじめ送っていただいたこの基本構想（案）の用紙に平成 29 年 8 月高知県と記載されている。これは県がとりまとめるという形になっており、私達は検討委員会ですので、これを県がとりまとめるにあたって色々なアイデアを出して、構想案に意見を反映させていただくという形でこれまで来た。今回検討しようとしている基本コンセプトは基本構想（案）の P12 に入るが、P11 までは牧野植物園の現状で、これが正しく把握されていれば園の問題点の解決策といくことで P12 以降に繋がるのが全体の流れ。P12 以降をコンセプトとしてどうするのか。私は、コンセプトはキャッチフレーズと受け止めているが、今まで多くの時間をかけてアイデアを出していた中から事務局に 4 つに絞ってまとめてもらい、それに対するご意見を伺ったところ、①と②番どちらかと言えば①番の方が多いかということのところだが、ここまでで意見はどうか。ここで裁決をとって何番か決めることにはしないので簡単にご意見をいただきたいと思う。

(A 委員)

私は①が良いと思う。どの案もしっくりこないのが本音、あえて挙げればということで①を選んだ。アピールをするためにどれが良いかということかと思うが、4 つとも散文的で説明的な文章、①が良いと思うが、①の文章の前後を入れ替えて「いのちを見つめる世界の MAKINO」とすればもっと良くなるのではないか。

(B 委員)

私はアンケートを提出しなかった者だが、私も他の委員の方が仰るように言葉がしっくりこないと感じている。「いのち」という言葉を最初に言い出した者として、五台山には寺

があり牧野植物園があり、他の植物園と違うところはいのちを見つめていのちに触れる、そんな場所ではないかと思う。寺では人の生死、いのちを見つめ、植物園では植物を通じて自然の神秘に触れる、これらは他の植物園にはない魅力。また五台山には歴史があると思う。もし私が決めるのであれば、B委員さんの「植物と生きる」そしてサブタイトルが「世界の MAKINO でいのちを見つめる」、こんなのもいいのかなと感じる。

(C 委員)

2つある。1つは世界の MAKINO という言葉があるが、県民は本当に今の段階で世界の牧野と思っているのか。世界に誇れる貴重な資料があるということだが、世界のという言葉をただ付ければいいのか、その辺りにギャップを感じる。2つ目、いのちを感じるこの言葉にも賛成はしているが、五台山では竹林寺が浮かんでしまい、牧野植物園を印象付けるには、植物といのちの関連を強調して出していかなければ分かりにくいと思う。やるのであれば皆さんにしっかり説明できるようにしないとイケない。

(D 委員)

私も同じように、ここ五台山にある植物園は珍しいとは思いますが、竹林寺との一体での整備は必要だと思うが、なぜ植物園を中心に磨き上げをするのか。①では少し無理がある。牧野植物園とは牧野富太郎のことではないか。そのため、「MAKINO で」という文言は少し無理がある。短いコンセプトとしてはどれもいまいち、どれもこのままでは使えない印象を受けた。牧野植物園は牧野富太郎博士の植物園なので、そのようなことがまとめられていればいいと思う。このような部分を磨き上げて世界の牧野植物園にするのが目的だと思う。その中に霊場である五台山があって、竹林寺があってという部分が入っているのが望ましいと思う。一方で、基本構想(案)の中に「いのちを見つめる」という要素がほとんど入っていない。基本構想(案)の中にも、いのちを見つめるような要素が必要ではないかと思った。

(E 委員)

私も事前に①~④案の中でどれが良いか回答しなかったが、コンセプトとしては4つともその通りであり、一つを選ぶ類のものではないなと感じた。どれでも良いと言うとイケないが、この段階で基本コンセプトを議論していることに愕然としている。一体去年から我々は何をしてきたのかという気持ちになってしまっている。基本コンセプトなんて、十分話したはず。園の在り方や理念は皆共有しているはず。文字はどうしても良いとも思っていて、世界で最も洗練された植物園にするとのキャッチコピーだけで良いと思っている。早く具体策が見たい。現状の案は非常に堅実であり、良い案だとは思いますが決定的に欠けていることは、県外のお客さんにアピールする最大の機会なのに、この案を見て県外のお客さんが来ようとは思わない。牧野植物園が新しく変わったので来たいと思うような訴求効果や、

アピールするものが具体的に何一つないと思っている。今回は最後で基本コンセプトをこの段階で議論しているなんて、一体何をするのかが決まっていない状況にやや愕然としている。

(F 委員)

私も E 委員と同じく、この時点でコンセプトを検討するという、この事象・タイミングについて少し疑問を持つ。

民間の営利企業であれば、皆さんの発言をまとめた 13 案のコンセプト案を以前に出した時点で、仮のコンセプトを決定し、調査をし、もう一度委員で検討するようなやり方もあったのではないかと今では思う。とは言え、4 回の委員会の中で (仮称) ファミリー園・(仮称) スタディ園、(仮称) 新研究棟は必要であること、シビックプライド・イノベーション・宝の人材の拠点となることは話し合われた中で平行してこの 4 つだけが提示されたので、私は消去法になるが①に賛成の方向。プロモーションのキャッチフレーズと基本コンセプトはまた別の考え方もあり、基本コンセプトは哲学であり運営方式であり、業務の根幹でもあるもので、それが今回決まるのかなと思っている。①を選んだ理由の 1 つは、短いこと。2 つ目は、オリジナリティ。植物園が持つオリジナリティがきちんと反映され尚且つ、意外性があるか。②③④は意外性が少ない。①は植物をいのちに変えているのが新しいと感じた。以前、実際に拝見した標本がタイムマシンのようなよみがえる事実や、住職から五台山の素敵な話を聞き、五台山一体で盛り上げるべきだということを見ると、①はオリジナリティもあり、かつ意外性もあると思う。さらに 3 つめとして、哲学や運営方針やプロモーション活動などをすべて包括していて活動しやすいかどうかという点で意外性があった方がやりやすいだろうなと思った。英語の文脈などは分からないが、選ぶとしたら①。それ以前に進行の順番が後先逆なのかなと思った。

(A 委員)

私が①を選んだのは、いのちは人も動物も植物から生まれている。その辺を、植物を使って子どもたちに見せる。あるいは、植物が生きていることを使えば良いのではないか。普通植物は動きが少ないので生きていることを受け取りにくいが必ず生きているものである。そこから我々のいのちが育まれている、この様な根源的な役割を運営してほしい。コンセプトにはいのちというフレーズが入っているものを選んではどうか。

(G 委員)

別紙の第 5 回検討委員会検討事項「基本コンセプト」の書類内で、私の意見は B 委員となっている。基本コンセプトとして、キャッチコピー的な感覚でここに貼り付けようとしていたが、そうでなくても良いことを再認識した。新奇性、オリジナリティということで、私自身「植物と生きる」という言葉でずっと S 社の「水と生きる」というキャッチコピー

と完全にかぶっているのでは、新奇性の意味では拙いと感じていた。自分であげては見たもののこれでいいのか、考え直さないといけないというのが正直な気持ち。それから、基本コンセプトはキャッチーな言葉でなくても構わないのであれば、先程議論の進め方の問題があったが、我々はこの委員会ではどのように磨き上げていくかについては大筋のコンセンサスを得ていて、ずっと積み上げて来たということでは異論はないものと思う。そのうえで基本コンセプトを何かキャッチーな言葉で落とし込んでいって、しっくりくるように収束させていきたいが、中々表現できない状態。我々が議論した内容を最大公約数的に個々に埋め込んでいくということで、いったんは磨き上げの方向性を誤らないように示しておくのも一つの方向性と思う。

提案だが、磨き上げ基本構想の概要の資料があるが、この委員会においては策定の目的を明確にして、それをどう具体的に目標に落とし込んでいくか、ということをしていけばと思う。現時点で、基本構想を概要にするときには、もう一回結論から考えていった時に基本構想の概要のタイトルは「基本構想（概要）」となり、一番に上にある策定の目的は結論になる必要はないのではないか。つまりここで議論した基本構想は、その目的である世界に誇れる総合植物園としてそのポテンシャルを最大限に発揮し、魅力を高めることを下記のように提案する、ということで考えて行けば、この部分自体が磨き上げの基本構想のコンセプトになるのではと感じた。キャッチーなコンセプトを、最小の言葉で書き込んでいくということ、そもそも論として再考し、上の部分を活かし「いのち」という言葉をキーワードとして委員の皆さまからいただいているので、中に組み込んでいって結論にするのも一つの提案ではないかと思う。

（委員長）

この4つの案の中から決めるとしたら、もっと積極的な支持が出るのかと思っていましたが、どちらかと言えば冴えないけれどこれかなという意見で①にまとまっているという感じは分かった。時間があればもっと考えても良いが、G委員からのお話があった様に、コンセプトの理解が委員によっても違い、基本構想（案）の文章の中でコンセプトが出てきても唐突な感じがするかもしれないので、コンセプトをやめて整備計画の目的の様な言葉で書いてしまうのがよろしいかもしれない。F委員の仰ったようにリサーチにかけるともあるかもしれないが、リサーチにかけなくても、整備の目的が具体的なものだったらここで検討して、できるだけ良いものにしたということで定義すれば良いのではないか。ここでは整備計画の目標といった格好にさせていただき、その下の説明の所にはキーワードを慎重に選び入れていただいて、今まで出た言葉をどのように整理していくのかを上手く記載してもらえれば、全体としては繋がりがいいのではないかと感じる。

（事務局：環境共生課長）

事務局の方でコンセプトをキャッチコピー的にまとめようという思いが強く提案してい

たが、本日のご意見を参考にさせていただいて、まとめ方を改める方向で考えていきたいと思う。改めて整理し直したものを皆さまに提示させていただきたいと思う。

(委員長)

これで、よろしいか。せっかく 5 回も検討してきたのにこの段階でコンセプトはいらな  
いというのは大胆なことだが、G 委員も仰ったとおり、今まで積み重ねてきたものをタイ  
トルにして書くということは変わらないので、コンセプトという表記でなくなるだけで今  
までの意見を総括してもらうということ。

(F 委員)

「いのち」という言葉は残したい。どこの植物園も水族館も動物園も「いのち」だと言  
われるでしょうが、牧野博士がご苦労されてきた「いのち」の凄まじさや醍醐味をオーブ  
ンにして次の世代にも目指していただけるように、「いのち」というものを何かキーワード  
にして五台山全体で考えていくのは他と違うオリジナリティになると思う。

(事務局：環境共生課長)

今回基本コンセプトをどうするかで、今後実際に植物園を PR するといった時にキャッチ  
コピーをどうするかは、別途 HP などで使用していこうと考えている。

(委員長)

いろいろご意見があるかとは思いますが、コンセプトについてはここで終了させていただく。

—休憩—

(委員長)

後半は、磨き上げ整備基本構想についてご意見を伺いたいと思う。これを公表したから  
には、高知県にはこの内容を実施していく責任があるわけだが、実際にこれに最終的に関  
わるのは植物園で働いている職員の方々やそれを代表する園長になるので、最初に牧野記  
念財団にこれに関するご意見を伺った上で、我々も意見を述べたいと思う。

(牧野記念財団)

私どもは、委員長が先ほど言われたように県から植物園の管理運営を委託され、県の指  
示に従って管理運営する立場である。牧野富太郎が生涯をかけて蓄積してきた歴史やコレ  
クションなどのポテンシャルを最大限に活かして、世界に誇れる植物園にしていく。これ  
が基本的に与えられた使命と考えている。キャッチコピーが何であれ、我々が今この植物  
園を運営していくことには変わりない。その点で県に対してお願いがあり、世界の牧野に

すると言うからには、牧野植物園を世界的な施設にしていくという意味も含まれていると思うが、世界の人が憧れる植物園にするということを県が言うのであれば、この事業をすべてやり終えたら自動的に世界的な植物園になる訳ではないと思うので、基本的にはそれなりのリソースを継続的に投入するという決意があることを、是非この場で確認させていただきたい。

2点目は構想(案)を見させていただいて幾つか意見があるが、どうしてもこの点だけというのはP22の植物園の運営体制についてである。植物園を世界に誇れるようにしていくには何よりも人員が必要不可欠で、人員が足りていないと絶対にできない。運営体制の整備というのは、人員組織体制の主要な大きな内容であるということはこの場で確認したいと思う。

もう一点は、南海トラフ地震対策について、長江圃場もそうだが、資源植物研究センターは大きな地震が発生すれば倒壊してしまう。植物も大事だが、建物が倒壊してしまうようなところにいつまでも職員を置いておくことは責任者としてできない。平成31年度以降の整備になっているが、研究棟の建て替え、長江圃場の中で本当に大事なものを定めていつまでにやるのかを、しっかりと決めてから計画に着手してもらいたいと思う。

あとは、小さな点だが、P18の駐車場対策の所で、今週末も夜の植物園が開催され、多い時で夜間だけで約1,000人の方が訪れ駐車場が溢れた。駐車場対策というのは当然必須だと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。P19に他の敷地を借り上げて臨時駐車場とすると書かれているが、これは現在すでに行っている。実施していることが基本構想の中にあるのは如何なものかと思う。できればこの項目は削除していただくのが望ましいと思う。

世界の植物園にしていくためのサポートと整備はしっかりと責任を持っていただきたい。それと、新研究棟の整備と長江圃場の移転は後回しにせず、すぐに着手し、年度を定めて実施してもらいたい。

(事務局：林業振興・環境部長)

人員体制について、世界に誇れる植物園にしていくためにそれなりの人員は必要であると考えているので、組織体制については財団と協議しながら整えていきたいと考えている。県としても、研究部門の人材の増員の話させていただいて、その準備も進めていきたいところなので、そういったところからやっていきたいと思っている。

長江圃場と資源植物研究センターの関係ですが、資源植物研究センターは耐震性が無いと診断されたので、建て替えをすることは記載しておりますとおりに意識している。完成年度については、他との兼ね合いもあるが、できるだけ早くという思いは持っているので、その方向で頑張っていきたいと考えている。長江圃場については、非常に広大で多種多様な植物があるので、一度には難しいが貴重なものからできるだけ早く移転させたいと考えている。

(事務局：環境共生課長)

補足で駐車場の件だが、通常管理運営の経費とは別枠で予算を取りたいと考えており、基本構想の中で整理している。現在は、イベント毎にその都度敷地外を借り上げてもらっているが、更に向上できないかとの考えにより記載していると理解をしていただけると有難い。

(E 委員)

牧野記念財団が仰ったことを端的に言えば、予算と人員を確保して欲しいということでのよろしいか。人員の増員については委員の総意でもある。委員会としても良い植物園にしていくには人員が必要と理解している。他の委員会でもそうだが、施設の話にはなるがそこで働く人間のことを考えていないことが多く、勝手なアイデアは出るがそこで働くのは職員の方々である。

(A 委員)

ハード部分は提案されているが、ソフトの部分はどのような計画なのかが曖昧に感じる。ソフト・ハード同時に考えてもらいたい。

(D 委員)

植物園の内情を知る者として、雇用条件は悪く感じる。条件が良ければ優れた人材が集まる。雇用条件も重要だと思う。良い人材を確保することは、世界に誇れる植物園を目指すために重要であり、良い人材を集めるには良い機材、良い施設も絶対必要、この部分も同時に整備していく必要がある。

(H 委員)

一般市民の福祉の分野の立場から、世界の牧野もそうですが、県民の憩いの場として誰もが来やすい場を作っていただきたい。構想の内容は、今までの議論の内容が提案に盛り込まれていると思っている。福祉の現場は命に直結した現場なので、コンセプトの植物といのちはしっかりときたので①を選択した。バリアフリー対策についてはより具体的な案を示して欲しい。車椅子もそうだが、松葉杖のような少し体調の悪い方など、誰もが来やすいを目指してほしいと思う。

(G 委員)

耐震の問題のある施設の中で研究を続けていくことは非常に由々しき問題であると思うので、新研究棟の建て替えについては至急に改善すべきで、平成 31 年度以降の整備スケジュール項目の中でも緊急度を重点化していくことを是非盛り込んでもらいたい。新研究棟は今の規模感では外部研究者を受け入れるオープンラボは全く通用しない。スペースが間

に合わない。耐震改修が問題になったので、植物学と薬学の融合を強調されているが、既存のスペースを前提に考えられているのならばスペースが狭隘化してくることが懸念される。現在の規模よりもどの位スケールアップするかについても思い切って書き込んでおくべきではないか。長江圃場の移転に伴う跡地の利用法についても関連する問題として出てくるのではないかと思う。仮にオープンラボとリンクさせ、スペースが制約因子にならないよう研究ポテンシャルを発揮できる施設を考えていかれるとよいのではないか。長江地区の5mの浸水問題があるのであれば、より高い避難施設を兼ねた建築物を検討する余地が出てくるのではないか。

インタラクティブマーケティング、すなわち来園者のお客様に対するおもてなしの対応は、職員の満足度や労働環境の問題、職員の植物園に対する誇りに影響される。サービスマーケティングの視点で見た時に、愛着や誇りを持ってゲストに接していけるのかが、世界に誇れる植物園になるための必須の条件であると思う。

別紙の第5回検討委員会検討事項「基本構想案」のE委員の意見をお借りしていえば、サービスマーケティングの視点を強化していき、その前提の園のスタッフへのソフト面の充実と、更に来園者に対する高度なホスピタリティを発揮できるような人材の育成も盛り込んでもらうとより良いと思う。

(C委員)

P15の展示館の室内展示はリニューアルしないのか。それと、VRシアターの50席はどこに作るのか。

(事務局：環境共生課長)

展示館の牧野博士の生涯の場から一段下がったスペースを、VR・4K・8Kのシアターとしてリニューアルすることを検討している。

(C委員)

50席は大体一クラス単位。クラスが複数ある場合どう対応するのか。

(事務局：環境共生課長)

一つのVRのプログラムが大体10分と想定されるので、入れ替わりで見ていただけたらと考えている。

(C委員)

学校の引率の側からすると、上映時間10分は少し短い。席数を増やすのか、上映時間を長くするのか考えてもらいたい。P17の小中高の学校との連携を一層深めて、プログラムを作ってもらいたいし、構想の中にそのことを明示していただきたい。より一層学校現場

の教育に寄り添いながら、かつ、牧野博士の志に基づくプログラムを行ってほしい。

近々できる教育施設では、アクセスに 1.5km 以上かかる場合は、一回はバスを用意してくれるとのこと。このくらいしないと、なかなか学校の児童・生徒に利用してもらえないと思う。予算の問題もあるが、是非こういったことも検討してほしい。

(I 委員)

長江圃場を、園の敷地の南側に移転する話については、その後どうなったか。

(事務局：環境共生課長)

この問題については検討の段階で、借り上げの交渉などはしていない。

(I 委員)

園の南側は、傾斜はきついが早期の移転を検討するのであれば、早く交渉を開始しないといけないと思う。スケジュールを早期に決定し早く明示してほしい。

(B 委員)

植物園の役割の一つは研究だと思っている。新研究棟については、世界一の研究施設にしてほしいと思う。中国のアマンリゾートには寺があり、人々の営みがあり、文化があり、そのようなものが一体にあることで、楽しめる様になっている。新しい観光の在り方ではないかと思う。五台山での連携は単なる連携ではなく、新しい発見や、意識の深まりなど、観光地の在り様を目指していけたらいいと思う。宗教施設、公共施設の垣根を取り払って人々にとって必要な場としての在り様、五台山は文化のにおいがするなど、文化が五台山の山の裾野に山頂から広がっていくような高いレベルでの連携をお願いしたい。まずは牧野、次に五台山という様に持っていかれたらいいと思う。

(F 委員)

P20 の広報については大体想定内の内容が書かれているが、どのようなプログラムでどんな世代を対象としているのか、プロモーション戦略についてどう考えているのか。何を訴えてどこをターゲットにしているのか。

総花的なものの広報は難しい。広報はこれからどのようなプログラミングで行っていかれるのか。(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園の見せ場はどこか。

コンセプトが最初に決まっていれば、(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園の目玉について議論できたが、今となつては、そのような状態ではない。広報の運営の立場から逆算して、(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園の目玉をどうプロモーションしていくのか。

(事務局：環境共生課長)

(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園については、県内の方々がメインターゲットと考えている。(仮称)ファミリー園は芝生主体に整備する。お客様は県内、近隣の県外の方々が自家用車でお見えになるのが多い状況。子どもたちが遊べる場が植物園に無いので、その点は県外のお客様を呼び込む要素になるかと思う。(仮称)スタディ園は学習プログラムをしっかりとメニュー化したもので運営していきたい部分と、植物の有用性を訴えることでどの位PRができるかというところである。県外からお見えになっている方々に改めて調査を行い、どこにプロモーションをかけていくかを検討したいと考えている。

インバウンドの点では現行施設に関わらず、植物園の説明機能をVRなどのガイド機能によってお客様が楽しめる施設にしたいと考えている。ターゲットの選定や手法など、プロモーションの方法については本年度中に検討していきたいと考えている。

(F 委員)

現在の入園者は7割が県内、残りの3割を伸ばしていくのかは別に考える。7割の方は(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園を充実させていく、その内容は芝生広場と学習プログラムである。逆に言えば、その2つ以外は考えてないのか。

(事務局：環境共生課長)

現在、牧野植物園が持っているポテンシャルが発揮できていないという認識がある。(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園はプラスアルファの部分であり、それ以外の元々のポテンシャルをどう見せて魅力につなげていくかが重要なので、核としては(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園ですが、一般のお客様が園を周った場合、ガイドさんがいるのといないのでは満足度が全然違い、反応の具合も違う。フリーで周っただけでは、植物園の魅力を十分に楽しめない人々へのソフト面をどうやって充実させていくのかが、園にとっての課題だと思う。

(F 委員)

(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園はプラスアルファであり、ガイドやソフトの部分で本来の魅力をきちんと伝える部分を磨き上げていく。比重として、3割の方を重視していくのか、7割を重視するのかはこれから考えるのか。

(事務局：環境共生課長)

7割は県内のお客様なので、3割の県外をどうやって増やしていくのかを考えていくという方向性である。

(F 委員)

その部分の具体的な案として、五台山全体の壁を越えた連携は、外からの目線では非常にオリジナリティがあり、世界的に見ても素晴らしい。どのような形で実現できるのか分からないが、広報しやすいと思う。

インバウンドの方、県外の方も含めて 1 時間半の時間で双方の連携が楽しめるのであれば、いのちの連携の様なプログラミングをこれから考えていくということか。

(事務局：環境共生課長)

ツアーのお客様の 1 時間や 1 時間半の滞在の方が、五台山で滞在していただくのであれば、どの様なメニューを提示できるのか。フリーで園内を回っているお客様もおり、双方へのプロモーションは違ってきます。できたら、フリーで回っているお客様で尚且つ、リピーターになってくれる方に多く来ていただきたいのが本音である。そういった方に如何にしたら魅力が伝わるのかを考えていきたいと思っている。

(F 委員)

そこにどの様な形とするかの戦略を立て、リサーチをかけて、比重をつけて投資とリターンをしていく。それが哲学的にも園の方針と合うのかどうかも逆算をして予算をつける。新しいチャレンジについては、まだこれからか。

(事務局：環境共生課長)

お金の話をすると、基本構想で行う整備は一回の出資だが、ソフトや人員体制などは継続的にお金を投入していかなければならないのは当然の話になるので、基本構想ではなく、通常予算枠外で予算を確保していくことになる。

(J 委員)

私も広報の所が気になった。P21 の観光業会の方への内覧会を行うところは、県内の関係者を想定していると思うが、一番大事なのは旅行会社であり、特に東京大阪の商品造成担当者に向けての内覧会は非常に重要かと思う。県外から呼び込むのでお金もかかるが非常に効果も高いと思う。集客についてはコンベンション協会の方にご相談いただければ、力になれると思う。竹林寺も含めた、1 時間半程度のコースを勝手に計画して下さいでは、広大な園内を周るのは難しい。そういった中で大事になるのが P20 の人的ガイドになるかと思う。冒頭で牧野記念財団が話された人員の問題が解決されてからになると思うが、最近バスガイド無しのツアーが増えており、専門性の高いガイドが受けられるツアーは時間短縮にもなり、ポイントも抑えられ、旅行会社がツアーの売りにもできる。また、参加者の満足度の向上にもつながるため、旅行会社はこの様な商品を求めているので、ぜひ必ず実現していただきたいと思う。P15 の VR は最近の流行りで、個人的見解ですがある施設の VR は中途半端だと感じた。中途半端になるならやらない方が良く、建物の雰囲気壊

さなくて済むのではないかと感じた。一方で、キラメッセ室戸 鯨館の VR はいいと思った。VR のヘッドセットの数が少ないが、取り組みとしては良いと思った。私のイメージでは、ヘッドセットを付けると、森に迷い込んだ様になり、幼少時代の牧野博士が森の中を案内してくれて、いろんな植物を採集させてくれる様なものを思い浮かべた。これなら遊びの要素もあり良いと思った。ヘッドセットの数もせめて、1 クラス 40 人分程は用意してもらえれば良いと思う。基本的な方向性に異論はないが、気になる点があったので意見させていただいた。

(事務局：環境共生課長)

VR については、ヘッドセットを使用しないシアター式で想定している。ヘッドセットでは装着の時間でお手間を取らせてしまい、職員も装着確認の時間が必要になってくるので、シアター式を進めている。旅行会社への内覧会については、植物園だけでの内覧会は難しいと思うので他の施設と連携していきたいと思う。

(F 委員)

他の園とは決定的に違う世界に誇れる牧野となった時に、「いのち」という言葉を大事にして欲しいと言った背景には、牧野博士と牧野植物園の皆さんが今も作り続けておられる標本は、世界に誇れる「いのち」の標本だと思ったからである。この本物・実物の標本を広報でぜひとも「いのち」というキーワードをからめて発信してもらいたい。

VR も良いと思うが、牧野博士の努力された本物を一般の方に理解していただける様な広報を、「いのち」というキーワードで牧野植物園・竹林寺・五台山公園がまとめて広報され、最終的にこの3施設が観光客にも1時間半の中で周遊できるようにするということができれば、いろんな意味で広報として他と勝負していけるかと思う。

(事務局：環境共生課長)

VR 自体でお客様を呼び込むのではなく、本物の説明のための設備とご理解いただければと思う。牧野博士が描かれた植物図は、肉眼ではわからないほど細かく書き込まれており、その部分について VR を使って見ていただいて感動を感じてもらいたい、という考えである。

(F 委員)

SNS が盛んになるほど本物が一番強いと思う。

(G 委員)

本物の魅力は言うまでもないが、これだけの植物資源、資料を保有しているということに基づいてアーカイブできる様に映像展開ができるようにしていただき、本来ならばその細部にまでアクセスできる様な、視点やサイズ感を持って現物の植物や牧野博士のスケッ

手画、更にお宝である所蔵書籍に気軽にアクセスできるようにするのも大きな誘客の材料になり、牧野のポテンシャルを活かしきるといった意味では重要な点であると思う。

VR 設備の導入が P21 に記載されているが、この技術は非常に進歩が速いので、技術の進歩のスピード感と、県が導入を検討している技術の間にギャップが生じてしまう。導入時に陳腐化した物を設置してしまったり、ワンパッケージの VR 映像が繰り返し上映されるだけでは全く魅力を感じない物になってしまう懸念はあると思う。常にアップデートできる様にし、また、リピーターに対してどれだけ訴求できるかの視点で見ると、どう作り変えていくのかはぜひご配慮いただいていい物を導入していく様をお願いする。

(委員長)

投資が無ければ思いは実現していかないの、投資が足りないのか、植物園の運営が悪いのかを客観的に、定期的に評価してくれる評価システムがあれば良いのかなと思った。県も植物園も両方苦勞してしまうかと思うが、客観的な視点は必要と思う。

広報については、大所帯になるといわゆる外商のような部門になってきて、植物園側で抱えるのは良くないと思うので、県の観光課などから植物園に出向ってきて植物園と一体になって広報を行うとか、よりプロの人がタッチできる様なシステムにしていった方が効率的に良いのではないかと思った。

牧野博士の完璧さを今以上に表現する、あるいは見せるものは今ある資料以上には無いので、この完璧さをどうアピールするか考えなくてはいけないが、比較は大事で他の人と比べて、牧野博士の特色はこれだとか、比較対象が新しくなれば、新しい切り口もできると思うので、牧野博士の資料を 100%使うのとは重みが違うが、それと比較する他の業績を上手く使って目新しさを出していくのを考えてみても良いのではないかと思う。

(事務局：環境共生課長)

県で外部評価委員会があり、評価を受けている。個々の施設によって特殊性、専門性があり、外部評価委員会では、運営上の細かな調査は難しいと思うので、私ども担当部署がチェック機能を果たして行くのが役割である。

(D 委員)

高知県内は全体的に植物が素晴らしい。他の施設や自然地区のパンフレットをもらうと、牧野植物園が関わったりしている。これらへの誘導はできないのか。高知の自然を見に行く前に、植物園の VR で事前に見せるなどで子どもたちに興味を持ってもらえないかと思う。VR で見せるのも素晴らしいが、現地で本物を見るのはもっと素晴らしい。現地への誘導は教育にも繋がってくるので、取り組んでもらいたい。

(F 委員)

ガイドの方が重要なのは凄く納得で、観光も含めて来ていただけるのは一つである。高知県の各地に植物に詳しいガイドを配置し、施設間でタグを組みスタンプラリーで巡る楽しみを与え、高知の植物について学べるようなガイド教育と、D 委員のお話が連携するとすごく面白そうだと思った。ガイドについて、実際どのような状況か。

(事務局：環境共生課長)

県の観光施設のガイドさんは、ほぼボランティアの方々に協力してもらっている。今後、各方々の専門的な知識の深まりは必要だと思うが、この様な点での横の繋がりには殆どない。今後課題として、例えば牧野植物園が一つの核となって他の施設と連携する、あるいは逆のことも可能性があると思うので、考えていきたいと思う。

(牧野アドバイザー)

ご議論いただき、富太郎もありがたく思っていることと思う。アルバムを引っ張りだし、60年前に祖母がこの地でご案内いただいている写真を見ており、そこから比べると本当に素晴らしい施設になっており、今後磨き上げてもらうことで魅力が増すのは遺族として本当に有難いことだと思っている。佐川町の方では牧野公園があり、そこを中心に観光を盛り上げていこうとしている。練馬区の牧野庭園も敷地を拡げていただいた。牧野式植物園については、こちらの企画展をそのまま巡回展示として開催し好評であった。ここ、牧野植物園が中核施設ではあるが、ぜひ、ルーツである佐川町、牧野庭園とも連携を取っていただけると良いと思った。

(委員長)

基本構想案ということで、これから成案に作り上げていただくが、ある程度まとまった段階で各委員に送っていただき、それぞれの方の意見を集約してまとめていただく。

(事務局：環境共生課長)

本日いただいた、ご意見・ご協議の結果を受け、今回ご指摘いただいた内容の修正を行い、各委員様個別に資料を送付し、ご相談させていただく。さらに、取りまとめ、パブリックコメントにかけていく。9月上旬から中旬で考えている。

(委員長)

この委員会での検討はこれで終了とし、意見をとりまとめていただくことを願います。(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園、照明については、具体的に事業が進行中というところで、現在の状況についてご説明をお願いします。

## 2 (仮称)ファミリー園及び(仮称)スタディ園の整備について

(事務局：環境共生課長)

基本構想(案)の資料でご説明させていただく。P13の①が(仮称)ファミリー園、②が(仮称)スタディ園になる。③が南園を中心とした、夜間照明常設の整備範囲である。夜間照明については設計段階で、近々には工事をやりたいと考えている。(仮称)ファミリー園・(仮称)スタディ園については、入札が終わり2~3日中に設計の契約を行う。設計後、年明け後に、工事着手をやりたいと考えている。ここに降る雨は園内での利水を考えており、来年の秋に開園予定である。

(委員長)

この検討委員会は終了でよろしいか。委員の先生方、ありがとうございました。

(事務局：林業振興・環境部長)

委員の先生方には、本日も熱心なご議論をいただき大変ありがとうございました。本日が最後の委員会であるが、振り返ると今年の8月が第1回の委員会であった。我々としては、牧野博士の貴重な財産など、牧野植物園が持つポテンシャルをぜひ多くの県民、県外、国外の方々にも見て、触れて、感動していただきたいとの思いで、この検討会を立ち上げ、多くの方々のアグレッシブなご議論をご披露いただきありがとうございました。

県として、やりたいこともあったが、我々の思いを上回る皆様方の熱いご意見をご披露いただき、構想としては、本当にいい物になったと思っている。現場の視察や、竹林寺様での開催も非常に思い出深く思っている。

県の方で、今回いただいたご意見で修正を行い、委員会の方にもご了承をいただいた後、磨き上げ整備をしっかりと進めていきたいと思う。牧野博士の功績を皆さまに伝え引き継いでいき、発信していきたいと思う。厳しいご意見についても、しっかりと受け止めて作業していきたいと思うので、今後ともよろしく願います。長い間ありがとうございました。